

# 卒業前の幼児の活動の実際



富 樫 純 子

## ○ひなまつりの相談

この一年間をふりかえってみて、一番印象の深かった卒業まぎわのころの、子どもたちの活動の実際を中心として考えてみたいと思う。この幼稚園では、例年三月三日に年長の二組が中心となって、ひなまつりのあつまりに、劇あそびやゆうぎ、うた、楽隊などいろいろ計画して、お母さま方も招待して、楽しい一日を過ごすことになっていく。この組の子どもたちも、ひなまつりまで、はりきっていろいろの準備にいそしんで活動をしたので、そのことにふれてみよう。

二月の半ばすぎ、子どもたちにひなまつりに何をしようかと相談し、話し合う機会をまず持った。昨年一年の年長組のひなまつりのときのこともおぼえているし、子どもたちもはつきりと意思をもってい

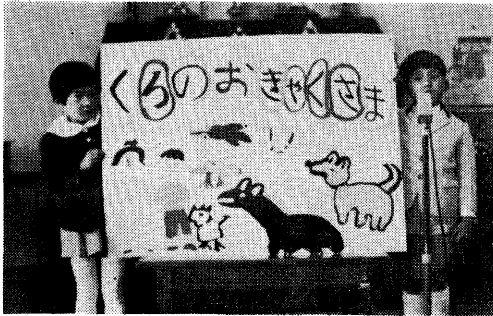
ることだし、今までも二年間なり三年間なり、子どもたちの意見をできるだけ尊重して、自発的な活動をもりたてるように努めてきているので、この最後の子どもたちの一番充実した時期のひなまつりのあつまりも、子どもの発言や気持ちを大切に、教師の計画だけを押しつけないと思った。もちろん教師の方には、いろいろ計画をもっているわけだが、子どもたちの本当にやりたいという活動をできるだけ取り上げるつもりだった。

やるものについての話し合いは、二組合同で歌と楽隊をするのと、この組で何かやりたいものをみんな考えて、やりたいものが一つときは、みんなに参加し、もし希望で二つになった場合は、その一つをえらんで参加するという形で示した。ペープサート・人形芝居、紙芝居、劇あそびなどのうち何がよいか、何にしようかと話し合いは活発に行なわれ、その結果、紙芝居と劇あそびがよいということに第一回の相談はまとまった。紙芝居、劇あそびについては、そののち何回か話し合う機会をもった。

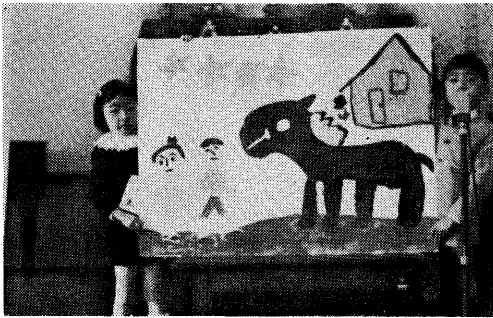
## ○紙芝居の製作

紙芝居を希望したグループから題材をきめることにした。紙芝居は絵が表現しやすい、場面もとらえやすい、筋も単純、出てくるものも子どもたちの希望でできることなどをあわせ考え、「くろのおきゃくさま」のはなしをえらんで、子どもたちにきかせてみた。子どもたちも喜んでこれに賛成して、出てくるおきゃくなど子どもた

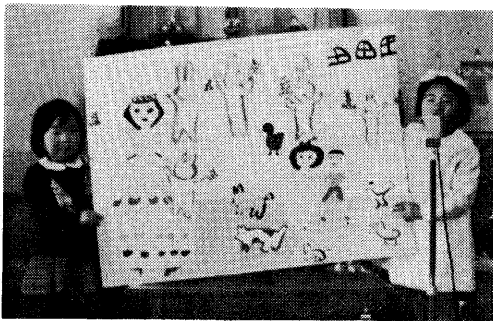
ちの希望も合わせて、紙芝居をかく順番なども相談してきめた。希望者の多い場面は、ジャンケンなどにより、他の場面にまわるなどして、それぞれ十二場面を分担した。広い場所で演出するため、大きい紙にえのぐで絵をかくことにし、一枚を一人でかく。これは当日の紙芝居発表のことを考えて、自分でかいた絵について話すようにするためである。



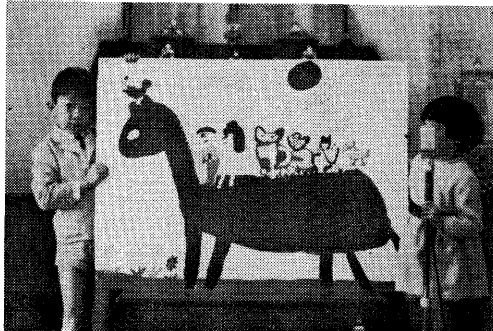
①「これから僕たちのつくった紙芝居をはじめます」



②「くろが歩いて行くと道で俊夫さんに会いました」



③「うきぎのこてんからかえるときおひめさまはみんなにおだんごを下さいました」

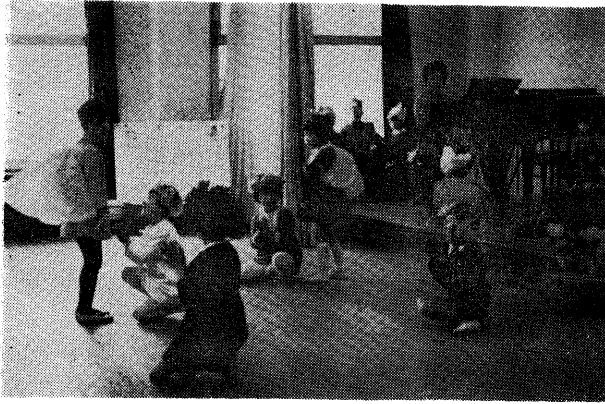


④「かえりもみなくろのせなかのにつかえつてきました」

いよいよ紙芝居をかく段階になり、男の子と女の子の洋服の色や靴の色は、同じ目だから同じでなくてはおかしいという子どもが発

案で相談し、出てくる動物なども、犬はぶちにしたら、あひるやこどりの色はどうか、おひめさまの洋服のもようはどうしようかなど本当によく自主的に話し合ってきた。えのぐを使ってかくときも、紙が大きいので友だちがえのぐの筆をしばってわたしてあげるなど、協力して一つの目的にむかっている場面も多くみられた。絵がかけてからどういふ話をしようかということも、自分たちでめいめいが考えることにした。前の人が次の場面の分まで話してしまつたところなども出てきたりして、そこは話し合ったり、あると

「あかずきんちゃんどこに行くの」「おばあさんおみまいに行くの」



あかずきんもおばあさんもたすかり、よろこんでゆうぎをしているところ



あかずきんちゃんのげきをしたおともだちみんなで



きは教師も相談に入り適切に助言したりもした。こういう内容を話すという大筋だけきめ、いろいろ考えるように仕向けたので、それぞれの子どもたちが、独創的によく考え、三、四回の練習でも話すことが固定しないで自分の思ったことを素直に発表してきいていて楽しいくらいだった。言語発表が充分でない子どもには、こういったらどうかなど友だち同士で助け合って協力しあう、ほほえましい光景もみられずいぶん成長したと感無量のおもいのときもあった。

### ○劇あそび

劇あそびは、子どもたちのやりたいという題材をえらんで取り上げたいと思った。赤ずきんをしたらという発案と、ふしぎなくにのアリスはどうかということになり、小さい組にわかりやすいということで、赤ずきんをすることに話し合ってきた。出てくるものや場面なども子どもたちと相談した。最初はまず自分のなりたい役になり劇あそびをした。筋や出てく

る順序、せりふなども子どもたちの考えをできるだけ取り上げて発展していくようにした。それから配役をきめることになり、希望者の多かった赤ずきんは、くじで、その他にも希望の多いものは、ジャンケンできめたり、お母さんのように、赤ずきんより大きくてお母さんらしいということでお母さんを希望したの中から、すいせんで決められた役もあった。

年長組の最後の劇なので、せりふを無理でない程度に入れたいたい、暗記したせりふをいうという感じでなく、ごく自然に話すような調子で言葉を入れるように指導した。それぞれの役で各自が思いのままに発表したり、表現したりさせ、子どもの動きをよく見て適当な音楽を入れ、自然に動作や表現ができるようにした。曲がよいものがなかったり、気が小さい子どもの言葉がすらすら出ないこともあったりしたが、はつきり思うことを話せた子どもをほめてあげましたり、特に気の小さい子どもの指導にあたっては、簡単な言葉でも、その子どもの中から引き出すようにして、安心していえるように心がけ、友だち同士でも互いに考え合ったりして、みんなで力を合わせて、一步一步劇あそびをつくり出していった。

劇の小道具も相談して協同でつくったり、分担してつくったりした。各自のおめんなどもいっしょうけんめいにつくり、子どもなりに、いろいろくふうして個性のあるものができ上がっていった。こうしたらという子どもからの発案はできるだけ取り上げるように努め、一つの目的にむかって、みんなが力を合わせてはりきって忙が

しい数日を過ごした。一方、あまり練習をして劇が固定して、創意がないものにならないようにも気をつけ、当日を興味の山にもっていきような配慮もした。これと平行して、二組合同の歌や楽隊なども練習して準備をすすめた。

待ちに待った三月三日は次のようなプログラムで会がすすめられた。

#### ひなまつりプログラム

- 一、うた(うれしいひなまつり) みんなで
- 二、園長先生のおはなし
- 三、げき(あかずきん) うみ
- 四、うた(じどうしゃうんでん・あくしゅでこんにちわ) もり・いけ
- 五、ゆうぎ(ふしぎなふえ・はなつなぎ) やま
- 六、うた(ふしんば・よつかど) やま・うみ
- 七、かみしばい(くろのおきやくさま) うみ
- 八、げき(きんのがちょう) やま
- 九、うた(トンツウツウトン・ありさんのおはなし) はやし・かわ
- 十、がくたい(はるがきた・かっこうワルツ) やま・うみ

当日は劇あそびも紙芝居の発表も歌や楽隊も、おきやくさまがたくさんで嬉しく、子どもたちは大喜びではりきってやった。

お母さま方も楽しそうに、にこにこしてみて下さり、幼稚園時代の思い出の一つのひなまつりのあつまりは、なごやかなよい日だったと思う。

## ○卒業のころ

ひなまつりのあとは、幼稚園時代の記念になるアルバムにはる絵をかいたり、きりがみをしたり、お友だちにあげる絵の最後の仕上げをしたりした。また春の自然のもとでおおぜいのグループでの友だちあそびが盛んで、残り少ない幼稚園生活を十分に満足して、のびのびと楽しく過ごした。

子どもたちも幼稚園が名残り惜しいらしくもって幼稚園にいたいといったり、先生とのお別れがさびしいからといって、先生もいっしょに学校にいつてねと可愛らしいことばもきかれた。先生ね、僕は大きくなったら飛行機のパイロットになってのせてあげるよ。わたしは、病院の看護婦さんになるから、病気のときは、いらっしやいよ。など……

子どもの夢や希望は、はてしなく広がっていくのだった。

放課後になり、アルバムの写真を整理して、入園当初のあどけなかつた子どもたちのことを、あらためて思い出し、この幼稚園時代の子どもたちの成長のめざましさに驚いたり、喜んだりもした。すぐ友だちとけんかをしたり、友だちあそびになかなかはいれなかつたり、きまりがまもれなかつたりした子どもたちも、卒業のいま、それぞれ立派に成長して、どの顔もどの顔も、四月からは小学生として元気に学校に。これからも、いろいろな困難なことに出会っても、自分たちでよく考え、よく学んで、すくすくとたくましく伸びてくれることを願っている。

日本幼稚園  
協会主催

## 幼児教育講習会

第一部 午前の部 九・〇〇—一二・〇〇

期日 昭和四十二年七月二十二(土)日—二十五(火)日

会場 お茶の水女子大学講堂

講師

東京大学名誉教授 海後 宗臣氏

日本教育学会会長 平井 信義氏

お茶の水女子短期大学教授 林 健造氏

お茶の水女子大学講師 坂元彦太郎氏

同 附属幼稚園長

第二部 午後の部 一・〇〇—四・〇〇

期日 会場は第一部と同じ

講師

お茶の水女子大学名誉教授 戸倉 ハル氏

日本女子体育大学教授

◎講演題ならびに時間割は次号でお知らせいたします。

お茶の水女子大学附属幼稚園内

日本幼稚園協会